

令和7年度 江戸川区立二之江中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	全校：「いま」「ここ」で頑張る生徒を育てる 江戸川区で一番の心のこもった挨拶のできる学校 ・健康で心豊かな人 ・自ら学び実行する人 ・協力し合い責任を持つ人 特別支援学級：社会的自立を目指し、人との関わりの中で心豊かな生活を営む力をはぐくむ ・身辺生活の確立と処理 ・基礎的学力の定着 ・コミュニケーション能力の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	すべての生徒が主体的に学習できる学校 本気で取り組む学校 互いを大切に、温かい空気感のある学校 心のこもった挨拶のできる生徒 夢を語るができる生徒 人の気持ちを大切にできる生徒 プロ意識が高い教職員 「自分の後ろ姿」で指導ができる教師 人を大切に、相手にベクトルが向いている教師
前年度までの本校の現状	成果 ・新しく異動してきた教員も、4人組・コの字型の授業を理解し、生徒が主体的に学習する授業の実現が図れた ・キャリア教育、性教育、安全教育などにおいて、外部人材を招くことができ、より本物から学ぶ学習の実現が図れた。	課題	・昨年度、異動者が半分近くいたため、校内研修を月2回のペースで実施したため、学年会等の会議が少なく、意思疎通が時間が確保できなかった。 ・クボタスピーアーズのタグラグビー教室が特別支援学級のみの実施にとどまってしまった。 ・通常学級と特別支援学級の職員室が別になっているため、情報共有がなかなか図れない状況があった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的対応の実施・充実	・コの字型机配置・4人組グループ学習授業の定着 ・ICTを活用した授業の充実 ・EDOスクの効果的な活用	・全国学力調査でAB層を6割以上にし、平均正答率を都平均以上にする ・区学力調査で、AB層を7割以上にし、区平均より10ポイント以上にする	70%	70%	B	・授業研究会、全体研修会を毎月実施し、コの字型机配置・4人組グループ学習授業の定着が図れた。	B	・コの字型、4人組学習は他校と異なるスタイルであり、生徒たちに効果的であると考え。	B	・授業研究会、全体研修会を計画通り実施し、コの字型机配置・4人組グループ学習授業の定着が図れた。	B	・コの字型机配置にすることで、生徒たちが協力し合うことができていると思う。	研究をただ継続するのではなく、より効果的な授業形態になるよう検討し、取り組んでいく。
		・読書科、総合的な学習の時間のテーマに沿った探究学習の授業の実施	・各学期に全学年で実施	70%	50%	B	・3年生は、修学旅行事前学習でテーマに基づいた探究学習を実施し、1、2年生は調べる学習コンクールに作品を出展できた。	A	・読書は知識を得るだけでなく、想像力を豊かにし、人生の視野も広がる。心の成長には大切な一つだと思うので、継続的な取組に期待する。	B	・まだまだ探究学習については、授業内で取り組むことは少なかったため、さらに教員の意識を高め、課題追究を大切に授業実践に繋げていく。	B	・身近なテーマを取り上げた探究学習になると面白いと思う。 ・教科書だけでなく、百人一首を用いた授業は面白いと感じた。	読書科が探究学習であることを教員がまず理解し、実践できるように改めて研修をしていく。
	○読書科の更なる充実	・補強運動を年間指導計画に基づいて確実に実施する	・毎時間の授業開始時5分間を帯活動にしていく	80%	80%	A	・授業開始時5分間は、体力向上を目的として補強運動が実施できた。	A	・目標達成ができています。 ・補強運動を行うことによって、子供達の体力向上につながることを期待する。	A	・授業開始時5分間は、帯活動として体力向上を目的とした補強運動が実施できた。	A	・事前に補強運動を行うことで体力向上につながっていると思う。	より効果的な補助運動になるよう、体育科教員同士で検討し、実践していく。
体力の向上	○男女共修を生かした保健体育科の授業改善	・工夫した段階的なゲーム形式を取り入れ、学び合い学習を通して体育好きな生徒を育てる。	・保健体育科の学習アンケートで肯定的な回答を85%以上とする。	50%	70%	B	・男女で同じ空間で授業は実施しており、お互いの取組を見ることはできているが、一緒に活動するまでは至っていない。	B	・男女一緒に活動することがまだできていないため。 ・男女共修で、子供たちの知識をより向上してほしい。	A	・男女共修の実現に向けて、接触しないバスケなどを取り入れ、生徒が主体的に考え、活動する授業が展開できた。	A	・学年が上がるにつれて、男女共修が厳しくなってくるが、共修から知識向上ができるようになると思う。	体育科教員に他校の実践を見に行かせ、自校に還元できるように促していく。
	○体力テストの取組の強化	・6月の実施に向けて、年度当初から各種目について授業中に習熟させていく。	・昨年より、すべての種目において向上し、都平均を越える。	60%	60%	B	・今年度は6月に実施したが、校庭がかなり暑く、運動するのに適したコンディションではなかった。改めて、実施時期を検討したい。	B	・当日の測定環境が整っていないかったということのため。 ・普段からの体力維持をお願いしたい。	B	・今年度、実施時期を変えたが、思うように記録は伸びなかったため、体育の授業内での実施に次年度は変更していく。	B	・近年の6月も気温が高く、実施するのも検討が必要ですね。	体育の授業内実施にしている。
	○個に応じた支援（合理的配慮）の理解と推進	・校内支援会議、特支運営会議を実施し、テストも含め、個に応じた支援の共通理解を図り対応する	・生徒向け学習アンケートで、肯定的な回答を8割以上にする	90%	90%	A	・テストではルビ振り対応、別室でテスト対応などができた。また、9月の研修で、配慮を要する生徒の対応の仕方について学ぶことができた。	A	・テストでのルビ振り対応など、きめ細かな対応を評価したい。 ・サポートしてあげることにより、その生徒も安心して取り組めるし、次の意欲につながる。	A	・生徒アンケートにおいて、85%が「分かるまで丁寧に教えてくれる先生が多い」と回答している。	A	・サポートにより、生徒たちも安心感が得られて良いと思います。 ・個々への細やかな対応に感謝します。	個に応じた対応ができるよう、生徒の特性や困り感を把握し、取り入れていく。
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・4人組グループ学習、コの字型机配置を継続し、自分のペースで学習できる手立てや資料を用いた授業の実施	・生徒向け学習アンケートで、肯定的な回答を8割以上にする	90%	90%	A	・授業研究会、全体研修会をこれまで9回実施し、誰一人取り残さない授業実現に向けて、生徒から学ぶことができ、声掛けや資料等の改善が図れてきている。	A	・授業研究会、全体研究会等の数多くの実施、生徒の取りこぼれ無き対応を評価したい。	A	・授業観察シートを用いた授業を見合う週間を設定し、誰一人取り残さない授業実現に向けて、生徒から学ぶことができ、声掛けや資料等の改善が図れてきている。	A	・長年続けてきた4人組・コの字の取組の成果が出てきていると思います。	引き続き、生徒を見る目を養う機会をもっていく。

不登校・いじめ対応の充実	○エンカレッジサポーターと連携した登校支援	・支援記録を作成し、隔週実施の特別支援会議で状況把握し、登校支援の手立てを検討する	・不登校生徒の出現率を4%以下にする ・どこともつながらない生徒の割合を0%にする	90%	100%	A	・不登校生徒に対し、校内別室指導を提案し、登校復帰につなげることができた。 ・毎週1回の支援会議で不登校生徒の支援の在り方を協議し、組織的対応ができています。 ・電話連絡、家庭訪問などを通して、週1回以上の家庭とのやり取りができています。	A	・生徒へのきめ細かな対応（校内別室指導、電話連絡、家庭訪問等）を評価する。 ・状況を把握できる体制づくりの継続と、小さな変化を見逃さないことを大切にしてほしい。	A	・不登校生徒に対し、校内別室指導を提案し、登校復帰につなげることができた。また、軽い運動やカードゲームなどを取り入れ、活動の幅を広げることができた。 ・毎週1回の支援会議で不登校生徒の支援の在り方を協議し、組織的対応ができています。 ・電話連絡、家庭訪問などを通して、週1回以上の家庭とのやり取りができています。	A	・大変だと思いますが、引き続き、一人一人に寄り添ってあげてください。 ・巡回指導をはじめ、いろいろと生徒たちをサポートすることで、抑えることができると思う。	エンカレッジルームの環境整備を行い、生徒が安心して学習できる場にしていく。
	○いじめの未然防止と発生後の初期対応の迅速化	・いじめ防止基本方針を理解し、全教職員が共通理解のもと、対応できるようにする	・いじめアンケート及びいじめに関する授業を各学期で実施し、早期対応につなげる	90%	90%	A	・いじめ対応時には、教職員全員が内容や対応状況について把握できるようにファイル共有を図れた。 ・校内支援会議終了後、いじめ対策会議を年3回は実施し、情報共有を図り、いじめの未然防止に努めることができた。	A	・全教師間における情報共有。会議等、きめ細かな対応を評価する。 ・引き続き、組織的な取り組みに期待している。 ・スピード感と今後の対応について、双方からのしっかりとした聞き取りをした上での対応をしてほしい。	A	・いじめ対応時には、教職員全員が内容や対応状況について把握できるようにファイル共有を図れた。 ・校内支援会議終了後、いじめ対策会議を年3回実施し、情報共有を図り、いじめの未然防止に努めることができた。	A	・子供たちの変化を見逃さない、いち早くSOSに気づくように、引き続きお願いいたします。 ・継続して会議で検討することを通して、未然防止につながると思う。	引き続き、会議が報告会にならないよう、組織として改善策を協議し、対応できる体制を維持していく。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校（園）ホームページの充実 ○学校（園）公開の実施・充実	・校内の出来事を発信する ・保護者会や土曜授業、道徳授業地区公開講座の実施	・各学年で担当を決め、毎日学校HPを更新していく ・保護者の学校評価アンケートの回答率を80%以上にし、そのうち肯定的な意見を80%以上にする	90%	90%	A	・ほぼ毎日、学校の教育活動の様子について発信することができた。 ・学校公開、道徳授業地区公開講座では、多くの保護者に来校していただき、教員と保護者の交流も図ることができた。	A	・ホームページが昨年よりも頻繁に更新されていることを実感している。 ・タイムリーに学校内の様子がわかるのはとてもよいと思います。	A	・学校HPの見やすさを追求するだけでなく、ほぼ毎日、学校の教育活動の様子について発信することができた。 ・学校公開、道徳授業地区公開講座では、多くの保護者に来校していただき、教員と保護者の交流も図ることができた。	A	・常に新しい情報が更新されていて、とても良いと思います。 ・学校のホームページを見ることで、子供たちのことがよくわかり、とても良いと思います。	管理職や栄養士が更新しているため、ICT担当教員にも分担し、より生徒の活躍の様子が発信できるようにしていく。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・コミュニティスクール準備委員会委員に学校づくりの一員であるという認識をもたせられるよう年6回の協議会を開催する	学校関係者評価でAの項目が8割以上にする	80%	90%	A	・7月までに3回の学校運営協議会が実施でき、教員と委員がグループになり熟議も実施できた。今後の二之江中の目指すところについて、意見交換をすることができた。	A	・KJ法を取り入れた熟議は、課題解決に有効的で委員としても有意義な会議であった。	A	・年6回の学校運営協議会が実施でき、教員と委員がグループになり熟議も実施できた。また、模擬面接練習に協力していただくことを通して、生徒の実態を理解し、身に付けさせたい力について協議することができた。	A	・協議会を開くことで、学校全体が向上していくようになると思います。 ・私自身はまだまだ力になれている自信がありませんが、少しでも力になっていきたいです。	本格実施になるため、コーディネーターを中心に、一つのテーマに絞って、協議検討ができる場にしていく。
教育の特色ある展開	働き方改革プランに基づく取組の実施	・会議等のペーパーレス化 ・定時退勤日	・月70時間以内が平均勤務時間となる教員を7割以上にする	70%	70%	B	・職員会議は完全ペーパーレス化で実施できている。 ・定時退勤日の意識が定着することができた。	B	・定時退勤日は良い取り組みだと思うが、先生方をみて、子供たちが「働かって素敵だな」と思える環境であればなおよい。	B	・職員会議は完全ペーパーレス化で実施できている。 ・定時退勤日の意識が定着することができた。	B	・ペーパーレス化により、働き方が変化していけばよいと思う。 ・メール配信が遅い時間だったため、心配になった。	働き方改革を推し進めていく。
	○効率的な事務の運用	・学校が管理すべき財産の整理整頓	・電子データ中心の業務に転換し、ファイルサーバー内のフォルダやファイルの整理整頓を行う	90%	90%	A	・サーバー内のフォルダを誰もが分かりやすく整理することができた。しかし、動画ファイルが容量を圧迫しているため、定期的に整理していく。	B	・東京都が掲げるDX化をさらに推進させ、セキュリティを万全として環境整備を図るとともに、共有フォルダ等の活用を高く評価する。 ・誰が見ても分かりやすく整理されているのは、とても良いと思います。	A	・サーバー内のフォルダを誰もが分かりやすく整理することができた。しかし、動画ファイルが容量を圧迫しているため、定期的に整理していく。	A	・分かりやすくできるよう、定期的に整理していけばよいと思う。	ICT担当教員が役割を担いで、定期的に整理整頓を行わせていく。
	○自己有用感及び愛校心を育む取組	・二之江中を愛し育てる会の標語コンクールの実施 ・生徒会によるクリーニング計画（地域清掃）や地域行事へのボランティア参加	・各学期に全学年で実施 ・民舞和太鼓部、吹奏楽部、手芸ボランティア部等の部活動や生徒会による地域活動に積極的に参加する	90%	90%	A	・標語コンクールを実施し、最優秀賞の懸垂幕を掲げている。 ・民舞和太鼓部、吹奏楽部は地域の施設のイベントや盆踊りを演奏等で盛り上げた。またボランティアに積極的にかかわる生徒が増え、地区運動会の運営、区主催のボランティア活動に貢献している。	A	・西瑞江四丁目町会夏祭りでは、毎年、民舞和太鼓部による実演を地域が楽しみにしており、地域連携の一環として今後も実施協力をお願いしたい ・私たちは様々なコネクションを持っていると思うので、今後生徒たちが活躍できる場所について、依頼できるようになるといいですね。	A	・学期ごとにテーマを掲げた標語コンクールを実施することができた。 ・民舞和太鼓部、吹奏楽部は地域の施設のイベントや盆踊りを演奏等で盛り上げた。特に民舞和太鼓部は、地域貢献が目覚ましいと高く評価され、都教委から生徒表彰を受けた。	A	・いつも標語コンクールではどれも素晴らしい作品で感心しています。 ・イベントを行うことで、生徒のモチベーションが上げられれば良いと思います。	地域のサポートが得られていることの強みを生かし、生徒に本物に触れさせる機会を増やしていく。また、地域に還元できる取組を検討し、地域コミュニティの中心になるように整備していく。